

非営利・協同セクターとしての人材育成を考える

法橋 聡（近畿労働金庫 地域共生推進部）

定年の1年前ですが、家庭事情などでこの3月末にろうきんを離れることとなりました。この間、私は近畿ろうきんで、NPOや生活協同組合の皆さんなど非営利・協同セクターの連携を進める共生事業に携わってきました。「コミュニティへの関与」の実践として、また「働く仲間の暮らしを地域からも支える」ために、NPO融資や社会貢献預金、障がい者アート展、子どもたちの未来を創る助成制度などを多彩に展開してきました。多くのご支援を得てこれら事業に前向きに携わってこれたことに感謝です。加えて、長年やりがいを持って参画できたのは、これら事業の社会的な可能性への共感からだと思います。本稿ではこうした協同セクターでの仕事の在り様について考えてみたいと思います。

まず、私たちの仕事の価値は何なのか。慈善ではなく、仕事を起こし、仲間を助け合うために立ち上がった協同組合は、根源的に暮らしを支え社会を変える可能性を持ちます。しかし日々の仕事の現実には数字に追われ、社会的な手応えには程遠いのが実情です。私たちはそうした日々の業務の向こう側に、社会の変革とつながる凄いフィールドがあることを想像し見通す力を養うことが必要です。それによって仕事のパワーややりがいには天地の違いが生じるのだと思います。業務研修やスキル研修で仕事の質を20%UP、30%UPすることも当然に必要ですが、加えて、事業の社会的価値に共感し、その主体的な担い手としてのマインドを持った場合には仕事へのエネルギーは3倍にも5倍にもなるはず。協同セクター

人は「コミュニティへの関与」を創る側で地域に変革を促すプロモーター。こうした視点からも仕事の手応えが生み出せるのだと思います。

私自身はろうきんの仕事を通して金融の持つ力を実感してきました。社会を壊すのも、望む未来を創るのもお金の力。携わる私たちがどんな理念を持つかで社会の絵姿も大きく変わります。今、「人を蹴落とす経済」＝グローバリズムが貧困と格差を生みながら世界を飛び回っています。この投機マネー主導経済に対して、世界的なスケールとビジョンを持って対峙し得るのは、10億人の構成員を擁して世界に広がる私たちのネットワークです。協同組合・労働組合・NPOなどが担う「支え合いの経済」を抜きに未来は語れません。世界を崩壊から食い止める非営利・協同セクターの一員として自分たちを捉えることで事業への共感と参画は大きく広がると言えます。

非営利・協同セクターの人材育成で重要なこと。それは、属する組織を超えて全体を見渡せる人材の輩出。もともと知恵と工夫で事業を創ってきた協同組合は、人材や知恵の「苗床」でもあったはず。タテ割の罫に陥らず、非営利・協同セクター全体の充実に貢献できる人材の育成こそが重要なのだと思います。購買・医療・金融・共済・農業など広範な領域を俯瞰できる学校ができれば素晴らしいですが、そうでなくても、相互の人材交流や合同職員研修などから始め、自前主義に陥らずに広い視点を持つ人材の育成ができればと切に願います。